



市民生活と放射線リテラシー

(講演概要)

3. 11の福島第一原子力発電所の事故は放射性物質の環境への放出という未曾有の事態を引き起こし、原発敷地周辺で暮らしていた住民は長期にわたる避難生活を余儀なくされております。また広い範囲に拡散した放射性物質、特にセシウムによる土壤汚染および海洋汚染はそこに生活する人々の安全を脅かすだけでなく、そこで生産された米、野菜、魚等食物の安全性にまで疑問符がつくという形で風評被害を引き起こし、生産者に大きな経済的打撃を与えています。このような状況下で私たちは日常生活の中で放射線とどのように付き合ったらよいのかという新たな問題を突きつけられています。このような折に主として横浜およびその周辺に住んでおられる市民の方々を対象として、放射線とは一体どのようなものか、健康に与える影響は、また食物の安全はどのように考えたらよいのか、また、リスクマネジメントとリスクコミュニケーションのあり方といった課題について理解を深めることを目的として、以下のような公開講座を開催することいたしました。多くの方々の参加を期待しております。

主 催； 横浜国立大学 安心・安全の科学研究教育センター

協 賛（予定）；横浜市立大学、安全工学会、高圧ガス保安協会、日本高圧力技術協会、横浜国立大学リフレッシュ教育コース

日 時；平成 24 年 11 月 20 日（火）、13:30～17:30

場 所；横浜国立大学 理工学部講義棟 A（102 室）

参加費； 無料

参加者募集；（100名）

プログラム；

司会 横浜国立大学 安心・安全の科学研究教育センター特任教授

白鳥正樹

13:30「挨拶」

横浜国立大学理事（総務・研究担当）・副学長

國分泰雄

13:40「大学病院の立場から 一放射線、放射能の知識一」

井上登美夫

横浜市立大学 大学院医学研究科放射線医学 教授

14:25「大学研究者の立場から 一放射線の安全管理一」

野村貴美

東京大学大学院工学系研究科安全管理室 特任准教授

15:10「リスクコミュニケーションの現状と課題」（仮）

竹田宜人

（独）製品評価技術基盤機構化学物質管理センター 情報業務課課長

横浜国立大学大学院環境情報研究院 客員准教授

15:55 休憩

16:10 パネルディスカッション「リスクマネジメントとリスクコミュニケーション」

益永茂樹

横浜国立大学大学院環境情報研究院 教授

藤江幸一

横浜国立大学大学院環境情報研究院 教授

安心・安全の科学研究教育センター センター長

本日の登壇者全員

申込方法；①氏名、②所属、③電話番号、④E-mail を記載の上、「公開セミナー第 3 回参加申込」と題記して、下記に E-mail でお申し込み下さい。

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-5

横浜国立大学安心・安全の科学研究教育センター FAX : 045-339-4294、E-mail : anshin@ynu.ac.jp

TEL : 045-339-3772、URL : <http://www.anshin.ynu.ac.jp/>